平成２３年度第４回小金井市立はけの森美術館運営協議会

平成２４年３月２７日（火）

【鉄矢会長】　　平成２３年度第４回小金井市はけの森美術館運営協議会を始めたいと思います。配布資料の確認をいたします。次第があります。それから、平成２３年度〈教育普及事業「展覧会とは別立ての事業」〉というのでクリップどめのものが１つ。それから、ホチキスどめのもので「中学校職場体験学習」のカラーコピーのもの。それから、収集評価委員会の１枚の表ですね。それから、「募集要項　別紙」と右上に書いてある「市町村立美術館活性化事業　企画内容」というのが１つ。それから、私の名前で３月１日付で出した提言がホチキスどめのものであります。それから、年報と年報別冊シンポジウム集というので、できたものがあります。

ございましたら、次第にのっとって、まず所蔵作品展鑑賞でよろしいですか。

【神津学芸員】　　はい。先に２階を見ていただいて、美術館改修工事についての、改修部分についてのご報告も合わせてする形でよろしいでしょうか。

【鉄矢会長】　　では、２　報告事項（１）美術館改修工事について（改修部分の見学）もあわせて行います。

（見　　学）

【鉄矢会長】　　では、次第にあります１　所蔵作品展鑑賞を終えて、報告事項の美術館改修工事について見学が終わったということで、事務局のほうからでよろしいですか。

【事務局（吉川）】　　改修工事は、とりあえず今年度分については終了いたしました。

今見ていただいたように、ぼろぼろのじゅうたんとか壁紙とか、アレルゲンになるようなものは取り払いまして、どなたでも入れるような状態になっております。

一応今年度の改修工事は終わりましたけれども、来年度、いよいよ奥の富子夫人の寝室と隣の部屋との間のお風呂場を取り払って、多目的室がを作る工事が始まりますので。そこまでできればある程度、この館内でやりたいことが、すべてやれるのではないかなというふうに思っております。以上です。

【鉄矢会長】　　はい、ありがとうございます。

では、（２）教育普及事業について、お願いいたします。

【神津学芸員】　　昨年11月4日におこないましたはけのワークショップ市の報告です。チ

ラシは以前にもお配りしているものです。

今まで年に２回開催していたワークショップを、長期休館するということで１回に集約して、同時にいろいろなワークショップに参加できるような企画にし、このように大盛況でした。様子がわかるように、写真を載せましたのでごらんください。

それぞれのワークショップの人数制限は、あるものもあったのですが、イベント自体はどなたでも予約なしでおいでくださいとしたのがよかったようで、スタートから５０人ほど並んで待っているお客様がいらっしゃって、途切れることなく、本当に年代も性別も様々な方が気軽に来て楽しんで帰るというよい流れができた１日だったのではないかなと思います。

参加者が２２６名という、はけの森美術館にしてはとても多い人数で、これは講師の方やアシスタントのご家族等は含まずの人数です。この人数の集計は、入り口で小さな丸いシールを渡して、地図に貼っていくという形をとりました。特に未就学児の方ですとか小さいお子さんですと、ご兄弟で１枚貼ったりですとか、1家族で1枚とかもあったようですので、あまり正確ではないですけれど、２２６は確実にいたという人数になります。

「はけのおいしい朝市」組合の方々に講師を頼んだことで、地域のつながりというのが広がり連鎖していったと感じました。これはぜひ継続してやりとりをしていきたいと思っております。

【鉄矢会長】　何かご意見等ございましたら。

【宮村委員】　活気があっていいですね。とてもいいと思います。

【鉄矢会長】　そうですね。

【神津学芸員】　周辺でイベントがあり、小金井が活気がある日をあえて選んでやったので、たしか鉄矢会長は、すぐに材料などが終わっちゃったらどうする？　という心配をされていたと思うんですけれども、コラージュやお絵描きが出来るはけの森コーナーというのをつくったのがとてもよく循環しまして、だれかがやっているのを待つ間に自分の好きに遊べる広場になっていました。そこからあちこちに飛び出していくという広場でおもしろかったなと思います。はけの森コーナーは資料２枚目の真ん中に写真があります。すごくぐちゃぐちゃとしておりテーブルと床に画材などが置いてあるのですが、好きにここで切って貼って絵をかいて皆さんのびのびと過ごしていらしゃいました。

【鉄矢会長】　この中で、長机を第二中学校より借用したって、すごくいいですね。なかなかこれ、逆に小さな美術館で教育委員会の中でうまくやっているからできたのかなと

思うのか、それとも学芸員が。

【荒木学芸員】　　当館の所管は教育委員会ではありません。

【鉄矢会長】　　そうなんですか。学芸員が頑張ったからできたんでしょうか。

【淀井委員】　　どうやって運んできたんですか。

【神津学芸員】　　文化課の皆さんに手伝っていただきました。

【鉄矢会長】　　すごいですね、でもね。こういう地域のつながりがあって、市民にとっては、税金がちゃんと休みのときにいろんなふうに回ってくるってすてきなことだと思います。

【神津学芸員】　　ただ、館に机がないから借用する必要があったということで、おかげさまで、とても近い第二中学校からまとめて１０台借りることができたのは大変ありがたいことでしたが、もろもろのやりとりに時間がかかったのも事実です。

【千村委員】　　小金井市は何かそういうふうにいろんなところから借りてくるのが元から盛んで、校長先生がリアカー引いてね、何か運動会のときの道具をほかの場所に借りに行ったりなんかして、次の日返しに行くなんていう姿がよく見られるんです。

【鉄矢会長】　　へえ、そうなんですか。

【神津学芸員】　　または講師の方が自前で自分のブースをつくるためにいろいろ持ってきてくださったりというようなこともありました。複数の講師の方にお願いするというのが初めてのことだったんですけれども、デザインをはけの朝市の方にお任せできたのでいろいろなバリエーションがありながら、うまくイメージがつながってはけのワークショップ市という統一感を持つことが出来たので、とてもすてきなイベントになったと思います。

【鉄矢会長】　　はい、ありがとうございます。　引き続き、中学校職場体験学習。教育普及事業でよろしいですね。

【神津学芸員】　　今まで、過去３年間緑中学校から職場体験の申し入れがありまして、続けて受け入れていましたが今年度に関しては一中と南中の２校から申し込みがありまして、改修工事が入るので場所が限られるとは思うけれどというやりとりをしましたところ、それでもかまわないということでしたので5名づつの計10名を受け入れました。　ふだん職員が休憩するのに使っている部屋で実施しましたので、ちょっと中学生たちも窮屈だったり、思っていた“美術館の雰囲気”と違うと感じたかも知れません。昨年度までは展示室で何かするということを必ず盛り込んでいたのですが、今年は他館のアートカードを使った体験学習をしました。　一番最初に美術館とはどんなところだと思うかというのを聞い

て書いてもらい、次にはけの森美術館とはどういうところだと思うか、ここだけのものは何かということを考えてもらって、これを３日間通して、自分の中で変えていったり、ふえたら足していく、同じだと思ったらつなげていくという作業を軸にしました。

同じ作業ばかりずっとやっていると飽きてしまうので、パンフレットづくりや、ミュージアムトークをするとしたらどんな話をするかなど、この美術館を知っていく作業は毎日少しづつやりました。

練習用の絵や陶器で、調書をとってみたりもしました。

また、緑地に行っている写真がありますが、写真のスタジオに職場体験に行っている子たちが、カメラマンの仕事としてはけの森美術館に取材に来るというデモンストレーションをしているところです。そういった連携の申し出がありまして、工事中で館内のご案内はできない状態ですので、緑地に行ったときから撮影をスタートということをこちらから決めさせていただいて、紹介自体はみんながしてくださいというツアーの様子です。

連絡をもらったときはどうしようかなと思いましたが、結果的にはうまくいって、みんなピリッと緊張して紹介しなきゃという本番になったところがよかったなと思います。

今回、プレワークショップとして今ごらんいただいた所蔵作品展のワークショップ２つをそれぞれ体験もしました。いつものコラージュにプラスして、１つ目は「コラージュ．クッキング」として、自分の晩御飯をつくるというもの。もう一つは「クラフトでラブラブ＆ハッピー大作戦」思いを伝えるカードをつくろうというワークショップです。自分が楽しくなければワークショップは企画できないので、これは仕事だと思ってやりなさいといったら、みんな大いにのってきて、いろいろ考えて作っていました。ぜひ近寄ってご覧ください。コラージュは動くものが多いです。これは牛タン、信州出身の男の子がつくったものですけれども、ちゃんとはしでつまんで取れる。グラタンもちゃんとパスタが凝っています。時間制限もかなり厳しくしましたが、みんな楽しんでやっていました。カードづくりは、割と詩的なものが多かった。コラージュ材料の中の言葉に注目するという生徒が多く、面白いと感じました。私にとってもプレワークショップになったので、ちょうどよかったなと思っています。

【淀井委員】　ここに来るっていう希望を出してくるわけでしょう、学校で。

【神津学芸員】　はい。

【淀井委員】　そうすると、やっぱりこういうのが好きな子たちなんでしょうね。

【神津学芸員】　学校にもよりますし、それぞれですね。自分はつくるのはだめだけれ

ども鑑賞はすごく好きだと最初から言っている生徒もいました。あとうれしかったことは、今回は全員が小学校のときにはけの森美術館に来てますという子たちでした。それがすごくうれしかったですね。

【千村委員】　　これに来た子は何年生だったんですか。

【神津学芸員】　　中学２年生です。

【鉄矢会長】　　すごく、至れり尽くせりやって。

【淀井委員】　　私なんかつくったら、こうはならないわ。（笑）

【神津学芸員】　　コラージュ材料にする古い美術館のチラシは全国からくるものをとっておくのでものすごくたくさんあります。それを選ぶのが楽しかったみたいです。展覧会のチラシをどういうふうにつくるのかという話を別にしておくんですね。色見本を比べたり、見本を触ったりしてから、これだけ凝ったものを捨てられないでしょうという話をすると、みんな一生懸命。みんな楽しそうでよかったなと思いました。

【鉄矢会長】　　すばらしい。（拍手）　すごい、すごい。

【神津学芸員】　　来年度に関しても、受け入れが可能かどうかというアンケートが各学校から来ていまして、工事が入るのがわかっているので、難しいとは思うんですけれども、一応文化課と相談をしまして、今の時点では可能という返事をしていいということですので、美術館としても話があれば、ぜひ受け入れたいなと思っています。

【鉄矢会長】　　すばらしいと思います。

【神津学芸員】　　教育普及事業については以上です。

【鉄矢会長】　　はい、ありがとうございます。何かご意見。

【宮村委員】　　すばらしいです。

【千村委員】　　何て言うか、楽しかったという評判を聞いて、また、例えば今度やるときにたくさん来たりしたら、人数何人って制限はあるでしょう？　そうすると学校のほうで抽選とかするのかしらね。

【神津学芸員】　どれぐらいなら平気かというのは、事前に受入れる側と学校とで協議しています。事前のやりとりさえ間違えなければ大丈夫かと思います。昨年度の７人というのはかなり多かったなと思いますので、そこは１つ目安になるかなと。作業をできる場所があればまた違ってくるとは思います。

【鉄矢会長】　　１人ぐらい学芸員になるかもしれない、将来。

【千村委員】　　もっとなるかも。ここに勤めたいと思うかもしれない。

【淀井委員】　　でも、子どもたちが来るに当たって、いろいろ企画したり、どういうふうに時間を過ごさせようかと考えたり、仕事が大変ですね。よけいふえるというか、３日間が重いというところもあるかと。どうですか。

【神津学芸員】　　確かに大変ではありますが、美術館の教育普及活動として大事なひとつだと思っています。今年４回目になりますので、大体、どのような流れにすると集中力が途切れず３日間を過ごせるかをこちらも工夫して実施しています。やっぱり生徒の中で何か成果を出したいという気持ちがあって、仕事を一生懸命したくて来てくれるので、何かそれぞれの生活につながっていく３日間にしたいなと考えています。

【鉄矢会長】　　美術館の教育普及に関することという話が、どこに出てたかな、条例の。ないか。じゃなくて、提言にはありましたよね。

提言にはあったので、何かどこかほかに書いてあるかなと思って。美術館の常識として教育普及活動というのはありますものね。いや、何よりも今、学芸員の継続した努力が、多分小学校の子どもたちが中学になってきて、「知ってる、来たことある」っていう、その体験の厚さは子どもにとってもとてもうれしかったんじゃないかと思いますね。お疲れさまです。とてもいいと思います。

では次、作品寄贈について。

【荒木学芸員】　　３月１６日に、平成２３年度第１回収集評価委員会を開催しました。この時点までに寄贈の申し出があった作品２件、１つが油彩画１点、もう１件が小さな素描３８点、合計３９点について収集評価委員による審議を通過しまして、今回、新たに当館の所蔵作品に入ることになりました。

最初の１点の油彩画なんですが、こちらは実は昨年の１月に中村研一の作品を持っているんだけれどというお問い合わせから寄贈の申し出をいただいていたのですが、震災ですとか、市長が交代したりですとか、そういった事情から審議が延びていました。

《井上富三氏の肖像》とありますが、描かれているのは、呉羽紡績、現在の東洋紡の社長だった人物です。中村研一はこのように企業人とか政治家あるいは学者の肖像をたくさん描いていて、しかもそれはただお仕事で、というよりは、知人や親戚の紹介によって描いているというものが多いんです。そういった肖像画が逆に当館には１点もなかったので、ぜひ受け入れるべきということで収蔵になりました。

来年度にでも公開できればいいのですが、額の損傷が激しいため、機会を見て額を修復、あるいは新調して、公開できるようにしたいと思っております。

【鉄矢会長】　　はい、ありがとうございます。

【荒木学芸員】　　２件目の素描につきましては、これは中村富子夫人が、かつて所蔵していたものです。実は、この改修工事に当たりまして館内の各所を整理していた際に、作品とか資料を保管していた場所の中でまとまった形で見つかりました。多分、旧財団から市に様々なものを寄贈する際に、市に寄贈するものに対しては徹底的にチェックしたと思われますが、逆に引き上げるものについては、見落としていたかもしれません。当館の所蔵品リストの中には入っていませんでしたので、相続者より中村富子夫人旧蔵の作品と確認の上で、寄贈をいただきました。

こちらの方も、本・雑誌の挿絵やその準備稿と思われる小さな作品が中心ですが、できるだけ早くに公開できるようにしたいと思っております。

【鉄矢会長】　　よろしくお願いします。

では（３）が終わりまして、（４）年報の刊行について。

【中村学芸員】　　まず、年報のほうですけれども、２冊で１組になっておりまして、この白いほうが年報本誌ですね。活動内容が載っているもので、クリーム色の表紙のほうが別冊になっておりまして、こちらは１８年度から２２年度の間に行われたシンポジウムですとかトークイベントの内容を収録しています。

開館してから今まで、この美術館が年報を刊行したことがなくて、美術館が全体としてどういうような動きで今まで活動してきたのかという記録が、部分的な記録としては今までも確認できるような状態でしたけれども、展示としてはどういうことをやってきたのか、教育普及事業としてはどういうことをやってきたのかということを、全体を通して見られる資料というのがやはり必要だろうということで、今回５年間分のものをまとめて刊行いたしました。一番最初の年報ということで、シンポジウムの内容を収録し別冊もつけようということで、そちらもまとめました。

なので、こちらの年報に関しては１８年度から２２年度まで５年間分の記録が１冊になっています。これから今後は、隔年程度での刊行、やはり年報というのは定期的に刊行して、その美術館の活動がどのように行われているのかというのを対外的に示していくものですので、隔年などでの定期的な刊行になるかと思われます。

内容ですけれども、目次にありますように、一番後ろに沿革のページがありまして、その後、展覧会の記録、教育普及事業、作品及び資料に関する情報、刊行物、広報活動、調査研究、管理運営、資料などとなっています。

この「７　調査研究」の中で、平成２０年度で、外部で所蔵されている中村研一作品に関して調査を実施していたんですけれども、今まで対外的にこういった調査が行われたということ、またさらに、その調査によって何が明らかになったのかがオープンになっていませんでしたので、調査の記録なども入れました。

今まで、展示とか教育普及というのはやはり対外的に行われてきていましたけれども、それだけではなくて、美術館のほうで研究だとかそういった調査などの活動というのも行われているというのがわかるようになるといいかなというふうに思って、このようにいたしました。

シンポジウム集の別冊ですけれども、シンポジウムが行われた記録、プログラム、あとは概要だとかそういったものだけではなくて、平成２２年度のイベントに関しましては、こちらはこの別冊で初めて収録される内容になりますので、そのときに行われた講演の内容を詳録として掲載しております。一番最初のものは、ちょっと３、４とは別になるんですけれども、後半の２つに関しては講演の内容というのもわかるようにしまして、講師の先生のご協力もいただきまして、ちょっと読んで見て、中村研一についてだとか、あとは中村研一の周りの人物についてだとかといったようなことを、そのときの内容を感じることができるような読み物としてもおもしろいといいなというような形の内容になっています。

今回は２０００部つくりまして、全国の美術館、博物館、図書館ですとか、あとは大学など関係する機関や個人にも送る予定です。これによってはけの森美術館の活動ですとか、美術館自体の周知につながるといいなというふうに考えておりまして、まず今の段階で４００部程度は外部に送付する予定です。

この表紙なんですけれども、最初は表紙も業者のデザイナーにつくってもらう予定だったんですけれども、業者のほうのデザイナーさんがつくってくれた表紙がなかなかしっかりこちらのほうの意向と合わなかったというか、そういうところがありまして、学芸大の学生さんが非常に頑張ってくれまして、このような表紙ができました。

【鉄矢会長】　　すごいね、大学の２年生で。

【中村学芸員】　　以前にも展覧会の広報デザインにかかわっていた学生さんで、はけの森美術館がどういうところかというのもある程度わかっていて、イメージに合うようなデザインを考えてくれたので、最終的にはよかったなと思いました。

【淀井委員】　　いいですね。立派ですね。

【鉄矢会長】　　ちゃんと学芸員が全員非常勤という問題点が目に見えて判る記録として並んでいて、すてきですよ。すてきですよっていうかやばいですよ。（笑）このアニュアルレポートって本当に危険な部分でもあるけど、１２３ページを見てて、感慨深いですね。

【淀井委員】　　でもこれ、これだけまとめるって大変ですよね。

【鉄矢会長】　　大変ですよ。

【淀井委員】　　つい、先日、違う美術館の年報を見ましたが、あっさりしていましたね。こちらの美術館の年月が短いこともありますが、これは何か随分力が入っていますね。

【鉄矢会長】　　１冊目、これだけやっていただくと、次からが。

【淀井委員】　　そうですね。やっぱり美術館としての活動が外に伝わります。

【鉄矢会長】　　これは全国の美術館にこう回っていくという。

【中村学芸員】　　はい、今大体４００カ所には発送する予定で準備を進めておりまして、都内近郊の美術館にも送りますし、あとは市内の学校、大学や関連機関の図書館にも送って、博物館、美術館について勉強したい学生が見られるようにしてもらえるようになればいいと思っております。

【鉄矢会長】　　そうですね。はい。

【淀井委員】　　初めのほうから、毎回しっかり記録して、見事にね、すばらしいなと思います。次回からは薄くなるんですよね。

【鉄矢会長】　　いや、わからないですよ。今、５年分というお話ですよね。もうちょっと字を大きくしてもらったりすると、厚くなっちゃうかもしれない。

【荒木学芸員】　　これでフォーマットができましたので、今後はこの形式を基準としつつ、そのときの活動に合わせて変えていくという形になると思います。

【淀井委員】　　でもすごいわ。本当によく記録を残して、しっかりね。びっくりしました。

【鉄矢会長】　　そうですね、すばらしい。

【淀井委員】　　校正もたいへんだったと思いますよ。この作品とか、名前とか、サイズとかね。これ１つ１つ。

【鉄矢会長】　　皆さんの名前も載っておりますのでご確認ください。すいません、残念ながら僕は教授になってないので、准教授なんですけれども。（笑）

すばらしいですね。

【千村委員】　　学芸員の皆さんも、このはけの森美術館の基礎を築いたというか、この

５年の間にこういうふうにかかわったということはすごく貴重だと思うし。事務局も一生懸命予算のこととかやってくれてね。

【鉄矢会長】　　印刷上がりがうれしかったんじゃないかなって。印刷上がってきて、とてもうれしそう。

【千村委員】　　これは今、私、ここにいるからこういうふうにして運営委員としていただいたんですが、運営委員でなくなったとき、これはどのようにしたら手に入りますか。

【荒木学芸員】　　有償頒布を予定しておりますけれども、ただ、委員なのでかかわられている方々には、あと何号かは送付するようにしたいと考えております。

【事務局（吉川）】　　あとは、市役所の情報公開コーナーでありますとか、図書館でありますとか、議員図書室とか、そういうところには公開で置かなくてはいけませんので、見ていただくようにはいたします。

【千村委員】　　はい、わかりました。

【荒木学芸員】　　今回は創刊号ということで部数を多めにつくりましたけれども、次号以降はかなり数を抑えることになると思います。そのことも考えまして、ホームページでＰＤＦファイルを公開することも予定しております。

【千村委員】　　ありがとうございます。

【鉄矢会長】　　では（５）平成２４年度以降の事業について。よろしくお願いします。

【神津学芸員】　　今の所蔵展が終わりまして、６月は湿度の高い時期ということもありまして、改修後のまたちょっと長めに休館するんですが、次の展覧会が、所蔵作品展で夏休み期間中を計画しております。少しいつもと違った切り口でできないかなと探しているところですけれども、ワークシートを配布したり、そういった夏休み中に遊びに行こうと思わせる展覧会を企画しております。それが、来年度の事業として１本目になります。

【荒木学芸員】　　夏休みの展示が終わりまして、また間に１カ月ほどの休館期間が入ります。その後、１０月から１１月の予定で企画展が入ります。石川県立美術館から中村研一及び中村研一と交流のあった画家の作品を借用して展覧会です。先日、石川県立美術館の方ともお話を始め、今のところ借用に関しては、いい方向にお話が進んでいます。これから具体的な時期ですとか、借用する作品などを詰めていくところです。

【神津学芸員】　　その後にまた改修工事が入る予定です。

【荒木学芸員】　　企画展が１１月か１２月に終わり、片づけが１２月初旬までかかると思いますが。その後、今年度と同じように、年末から改修工事が入る予定になっておりま

す。これがまた、改修工事の内容によってどれぐらいの期間を取るのかわからないので、次の展覧会は年度末スタートになるだろうと予定しています。

【鉄矢会長】　　これ（資料）はまた別のものなんですね。

【荒木学芸員】　　これまでお話ししたのが平成２４年度です。今までこの美術館では、当該年度か年度末までの話しかできなかったんですが、財団法人地域創造という、いわゆる地域興し、文化振興の援助をしている財団がございまして、その事業の中に市町村立美術館活性化事業として、中小規模の公立美術館による巡回展の企画を立てて、それで参加館を募集して、展覧会を全国に巡回するというものをやっています。平成２５年度の企画に応募しましたところ、参加内定ということになりました。平成２４年度が準備年度で、参加館同士と地域創造で何回か会議を持ち、平成２５年度に展覧会を開催するということになっています。今のところはけの森美術館では平成２５年の秋に開催する予定になっております。

展覧会の内容ですけれども、ここにタイトルがあります。岐阜県美術館所蔵作品による佐藤慶次郎の不思議な振動の世界展（仮称）。佐藤慶次郎という作家は、本当は作曲家ですけれども、同時に音が出たり振動の出るオブジェをたくさんつくっていまして、それを数多くを所蔵している岐阜県美術館から作品をお借りして展覧会をするというものです。

当館ではこうした初期のメディアアートというかキネティックアートというか、そういったジャンルは今まで経験がないということと、その一方で、ほかの地域の美術が持っているおもしろいコレクションを紹介するという、今までの当館の企画展の流れとも合っているという点で、当館で行えたらと考えて応募したところ、幸いにも参加が決まりました。詳しい話は来年度に入ってから進みます。

【神津学芸員】　　所蔵作品展２本の企画展が１本、計３本の企画になります。今、荒木が言いました２５年度市町村立美術館活性化事業が準備年度としてスタートしているので、企画としては先が決まっていてうれしい半面、これは大分、教育普及事業のときも言いましたけれども、こちらの基盤は大丈夫かというような話になってくるかと思います。

【鉄矢会長】　　という話ですので、スムーズにできるように体制が、安心してスタッフが働ける環境になるといいなと思っていますけれども。

ありがとうございました。（５）平成２４年度以降の事業について、何かご質問等ありますでしょうか。

なければ（６）運営協議会からの提言の提出について、これは事務局から提出しましたよという。

【事務局（吉川）】　　提出しましたよというだけしか報告できなくて申しわけないんですが、市長の決裁までいきました。感想についてはあったのかと館長に聞かれたんですけれども、「特に…」というような感じです。（笑）

【鉄矢会長】　　お読みいただいたという。

【事務局（吉川）】　　お読みいただいたというところで、検討していただけると思いましょうということでございます。

【鉄矢会長】　　わかりました。では、今報告ありましたように運営協議会からの提言は市長の手に渡りまして、市長がお読みいただいたそうで、今検討をなさっていただいているというふうに我々は受けるということで。

【事務局（吉川）】　　市のホームページ等でこれから公開しますので。

【鉄矢会長】　　わかりました。議事録にもしっかり載せましたので大丈夫でしょう。

報告事項をこれで６点終わりまして、その他、運営協議会総括等について。

【事務局（吉川）】　　これで今年度の運営協議会はすべて終了しますので、今年度の事業とか美術館の関係についてのご感想とか言っていただきたいことと、あと、これで３期やっていただいた運営協議会の委員さんも、これで終了となりますので、長い間やっていただいたご感想等、思いを一言ずつお話しいただければと思いますので。鉄矢会長にはお願いしまして、もう一期残っていただくことになりましたけれども。あとの公募の委員さんとか学識の委員さんは変わりますので。本当に長いことありがとうございましたということで。ぜひご感想をお願いいたします。

【鉄矢会長】　　どうします？　館長からいきますか？

【鈴木委員】　　本当に皆さん長い間ありがとうございました。はけの森美術館を支えていただきまして、本当に感謝しております。どうもありがとうございました。引き続き鉄矢会長にはお残りをいただいて、またご助言等いただければというふうに思っております。

また改修工事、美術館のほうで進めておりますので、来年度については多目的講義室を設ける予定があるということで、今後また、先ほど出ておりました教育普及事業の新たな広がりというか、そういった充実が期待できるのではないかなというふうに考えております。

ここで任期満了で退任される委員の皆様にも、引き続きはけの森美術館のほうに足を運

んでいただいて作品鑑賞を通していただいて、また、アドバイスですとかご指摘等をいただければというふうに考えておりますので、また、よろしくお願いいたします。本当にありがとうございました。

【鉄矢会長】　館長は異動なく。

【鈴木委員】　私は異動ございませんでした。

【鉄矢会長】　よかった。私の周りに敵がいっぱいいますので。（笑）またよろしくお願いいたします。

【宮村委員】　何も力になることができなかったかなという反省もありますけれども、この年報とかも見せていただいて、本当にすばらしい内容の５年間だったなと、しみじみ思いました。本当にすばらしい美術館があるよということを、また、地域の皆さんに伝えていきたいなと思っております。本当にお世話になりました。ありがとうございました。

【千村委員】　いろいろ思いはあるんですけれども、この自分の専門でもないことを皆さんの中で委員としてかかわってきて、ただただ、いらっしゃる学芸員や鉄矢先生や薩摩先生たちのプロというかそういうものの進め方､考え方というのがとても勉強になったし、びっくりする部分がすごく多かったです。

予算というのが本当にないところで、これは美術館だけではなく、いろいろなところでないんですが、そういう中でこういうふうな企画をいっぱいしてきて、そしてここまでみんなに興味を持ってきてもらえること、成長したということは、本当にすごいなと思います。

今まで携わってきた方々は、このはけの森美術館の基礎というか、これから多分発展していくというか進化していくであろう基礎の部分をつくってくださったんだと思うんです。ですから、委員を離れても私は近くに住んでいることもあるし、また子どもたちともつながっているので、この美術館の成長とか進化とかを見届けてかかわっていきたいなと思います。

そしてまた、この美術館のある地形というかロケーションというか、それがほかにはないすばらしいところでもあるわけなので、その中にある美術館として、そういう個性も持ちながらやっていってほしいなと思います。

今までの皆さんのいろんなお話を聞いている中で、３本柱の１つとして庭園のあり方というのが反省で出てきて、庭園というのは、この中村研一に即した庭園であるべきだという考え方と、別にそれに即さなくても、この地域の植生なりの庭園であっていいじゃない

かというふうな考え方とかいろいろ出て、それは結論は出ていなかったんですが、いずれにしろ、この庭というのは今は何も手つかずで、私がかかわってきた運営委員の委員会の任期の中では何も手つかずでしたが、今後この庭園も美術館の１つの大きな宝といったらおかしいけれども、所属しているものとして、しっかりした見方で進めていってほしいと。大きなこの美術館の個性というか、それの１つであるので、それを課題として何らかの進展があってほしいなということをすごく思いました。

とにかく、この先が見えるというか、未来がある美術館というふうに感じながら任期を終えられるのはとてもうれしく思いますし、自分自身がかかわりながら、別に何もできないで傍観者みたいで学ぶだけの自分だったというのは大いに反省されますが、とても、とてもよかったと思っています。

学芸員の皆さんのアイデアのすてきさというか、私なんか思いも寄らなかったいろいろな企画が飛び出してきて、ああ、学芸員の人ってこういうことを考えるんだとか、こういうことをするんだと、自分の関係ない専門の分野について驚くことがすごく多かったし、また、そういう力を発揮していろいろやっていただきたいなというふうに思っています。ありがとうございました。

【淀井委員】　私も何のお役に立っていたかわからないんですけれども。小金井にずっと住み、地域の美術館のこういう役目にかかわったことで、自然と人間と文化について、より深く考えることができました。この土地が縄文時代から人間が住み続けたいい場所であり、そこに美術、芸術の種がまかれたという感じがして誇らしいですね。

美術館運営協議会の内部に入ってみると、学芸員の方々が大変ご苦労されて、ここまで働いてきてくださったことが本当によく分かりました。随分難しい環境の中で活気ある美術館の活動を目に見える形に表現されたことは、すばらしいと思いました。この年報を見ても、本当にここに集約されていますよね。これから、次々と新しい展開があると思いますので、期待して見守りたいと思います。

ありがとうございました。勉強させていただきました。

【鉄矢会長】　鉄矢です。１人残って（笑）今度の委員はどんな人になるのか、全くわからない中でどきどきして、それは何とかしたからというような発言ではなく、またフレッシュな気分で運営委員としてかかわっていこうと思っています。

何よりも小さい美術館で固定的なことではなく、やはり逆境をエネルギーに変えていこうというものが一番大事な学芸員さんの源泉だと思うんですね。それをちゃんと応援でき

る格好をしておかないと、運営委員のほうから実はブレーキがかかるようなことだと、もうやりがいというのが見出せなくなる美術館になってくると。本当にこういう年報のようなものが、記録のようなものが、今見てても楽しいです。こういうものが楽しくないものになってしまう可能性もあります。所蔵作品展だけとっても常に企画がみずみずしく、今回の「ラブラブ」というキーワードなんかも簡単には出てこれないし、やるには勇気がいるんだと思うんです。ふざけてると言われたら、たまらないところかもしれないです。でも、そういうことを臆せず進んでいける学芸員の皆さんたちをぜひバックアップできるようなものと一緒にディスカッションができる運営委員会を進めていければと思っております。

皆さんが協力していただいた、それからディスカッションしていただいた５年間を大切に維持しながら、次期やっていきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

その他、ありますでしょうか。

【鈴木委員】　　では、私のほうから。　学芸員の中村が、一応今年度いっぱいで、やっぱり任期満了という形で卒業することになりましたので。年報の作成にかかわっていただいて、こうして立派なものをつくってもらいました。中村学芸員から一言ごあいさつをお願いします。

【中村学芸員】　　４月にお伺いしまして、１年間、年報のことをやらせていただきました。こちらの５年間の活動というのをいろいろ整理しまして、５年間の中でどういうことをやってきたかという記録、その都度、その都度残されてきたものというのは、やはりその時々でその残し方というのがそれぞれあって、それをどうやって１本の形にまとめていくかというので、結構悩みながら仕事をしてきたので、何とか形になってよかったなというのが、まず１番なんですけれども。

年報をつくること以外にも、本当にこの規模の美術館の中で、本当にいらっしゃる来館者の方たちとすごく近い距離で仕事をしていくというのを１年間やるというのは非常に新鮮でした。その年報の中で情報をまとめていくということ以外にも、本当にいろんなことを体験させていただいて、ただ年報をつくるということ以上にここで学んだことというのは非常に多岐に渡ってあったなというふうに思いますので、１年間、毎日、内容の濃い仕事をさせていただいたというふうに思っています。

どうもありがとうございました。

【鉄矢会長】　　薩摩先生も一言。

【薩摩顧問】　　私も芸大の美術館はじめ、９０年代に美術館建設の仕事ばかりやっていたこともあって、いろんな美術館の立ち上がりに関係するんですけれども。やはり、立ち上がり苦しいのは最初の１年半ぐらいというのが、一番苦しいんですね。それはなぜかといいますと非常に単純なことで、開館の準備室のころというのは、開館が目標になってしまって、開館するとそれでバンザイと言って、挙げ句の果てに、あの美術館つくったのはおれだというのか１０人ぐらい出てくるんですよ。でもこれは、橋やトンネルをつくっているわけじゃないので、でき上がればいいというものじゃない。問題は、それから先をどうするかというのが一番大事なところ。大体、そこのところに頭が回っていないことが多くて､最初の１年半ぐらいというのは非常に辛いんですね｡いろいろなことがあるにせよ、きちっとここからいろんな企画が立ち上がっていますので、そういう意味ではこの５年間それなりの成果はきちっとあったと。その成果があったがゆえに、もちろんこれは中村さんのご尽力もあるんですけれども､成果がゆえにこういう立派な報告書ができましたたし、いろいろな企画展をすることもできるようになってきたというふうに考えております。

ですからそういう意味では、いろんなことがあったとはいえ、この５年間で、これは本当に学芸員側、それから市の側の力、それから委員の方の力、その他によって、とにもかくにもここまでこれたということが非常に喜ばしいことだというふうに思っております。

これは本当に今まで、いろんな問題があるにせよ、それなりにかみ合ってきているという気はいたします。もっと問題があるところってたくさん私知ってますので。

例えばですけれども、１つ申せば、何とかかんとかやってこれた１つの大きな要因は、この条例では１２６ページにありますけれども、第６条なんですが、美術館の休館日は次のとおりとする。月曜日、１月１日から３日まで、それから、１２月２９日から３１日まで。こんなことはとてもじゃないけど、今の体制の中でできないわけで、この６条の一番上にある「ただし、市長が特に必要があると認めたときは、これを変更し」という、この条項を、これは本当に市長、館長あるいは事務局のほうが、言ってみれば、これを容認してくれてかなり自由に開館時間を設定させていただいたんですね。これは私は本当に感謝しなければならないことだと思っております。多分議会あたりでは何か追及があったんじゃないかと拝察いたしますけれども。やはりこういう柔軟性をかなりもってやってこれたということで、とにもかくにもここまでの結果だと思います。

やはり次の５年だと思います。１０年たてば多分安定してくると思います。これはいろ

んな例から見て、そこまでが非常に難しい、辛いところなんですけれども、何とかなってくるかなということで、私もそのころまでは頑張ろうかなと思っておりますけれども、また、ここで一応公としては美術館から関係がなくなる方も、ぜひ応援団としてこれからも支援していただければ思いますので、よろしくお願いいたします。

【鉄矢会長】　　ありがとうございました。

　では、その他のその他、ありますか。春ということで小金井でもいろいろ催しがあるようですが、美術館が外に出ていくのはまだ難しいですか。もっとどんどん地域と絡めたらいいですね。

【荒木学芸員】　　改修が終わってワークショップ、スペースができたら、１階で展覧会をやっていても、別にイベントを開催できるので、それこそ地域のイベントが重なる日にワークショップを重ねたり、連携ということは考えられるんじゃないかなと思っています。

【鉄矢会長】　　はい。では話は尽きないんですけれども、一応締めます。

　平成２３年度第４回小金井市はけの森美術館運営協議会を終わりにいたします。ありがとうございました。

【一同】　　ありがとうございました。

―― 了 ――